

介護キャリア段位制度の進捗状況

介護キャリア段位制度 これまでの経緯① ～制度立ち上げまで～

22
年度

12月 介護WG(ワーキング・グループ)において、介護キャリア段位制度の検討を開始

5月 ・「実践キャリア・アップ戦略基本方針」取りまとめ
・3分野ごとの論点整理

(主な内容) ・全体のレベルは原則として7段階
・「わかる(知識)」と「できる(実践的スキル)」の両面を評価

23
年度

7月 東日本大震災からの復興の基本方針に位置付け

復興を支える人材育成のため、
実践キャリア・アップ戦略を推進

実証事業

介護プロフェッショナルの実証事業(福島、東京、千葉、広島の4都県で実施)
140の事業所・施設(843人)を対象に、評価基準の妥当性などを検証。

評価基準・制度スキームの決定

24
年度

6月～8月 行政事業レビューを受け、介護WGにおいて、既存の資格制度との関係の明確化や、キャリア段位認定者数の目標(2020年度(平成32年度)までに累計13万人程度(※))を設定。
※目標の達成に向け、制度創設後3年間で2万人程度、2015年度以降は各年度2万人程度のキャリア段位認定者の育成を目指す。

9月～10月 実施機関(事務局)を公募 ⇒ 選定 (介護:シルバーサービス振興会)

平成24年11月 介護キャリア段位制度の立ち上げ

介護キャリア段位制度 これまでの経緯② ～制度立ち上げ以後～

24年11月 介護キャリア段位制度の立ち上げ

24
年
度

被災3県で先行的・
重点的に実施

1月～3月 被災3県(岩手県、宮城県、福島県)で評価者(アセッサー)講習を開催し、326名のアセッサーを養成。

25
年
度

特定被災区域で
重点的に実施し
つつ、他地域の
主要都市でも展
開

【評価者(アセッサー)講習の実施(8月～10月)】

評価者(アセッサー)講習を11都道府県・12会場(※)で開催。3,397名が参加し、3,003名が合格。

※講習開催会場:岩手県、宮城県、福島県、茨城県、千葉県、北海道、東京都(2会場:一般分、全老健タイアップ分)、愛知県、大阪府、広島県、福岡県

⇒ 全47都道府県で、総勢3,329名(2,191事業所・施設)の評価者を養成。

【レベル認定の取組】

養成された評価者が、順次、介護事業所・施設で評価を実施

⇒ レベル認定に取り組む介護職員が2,450名(1,700事業所・施設)以上に〔2月末現在〕

【審査員講習の実施(12月～2月)】

評価者講習の成績優秀者に対して、外部評価審査員講習を実施(全国3会場)

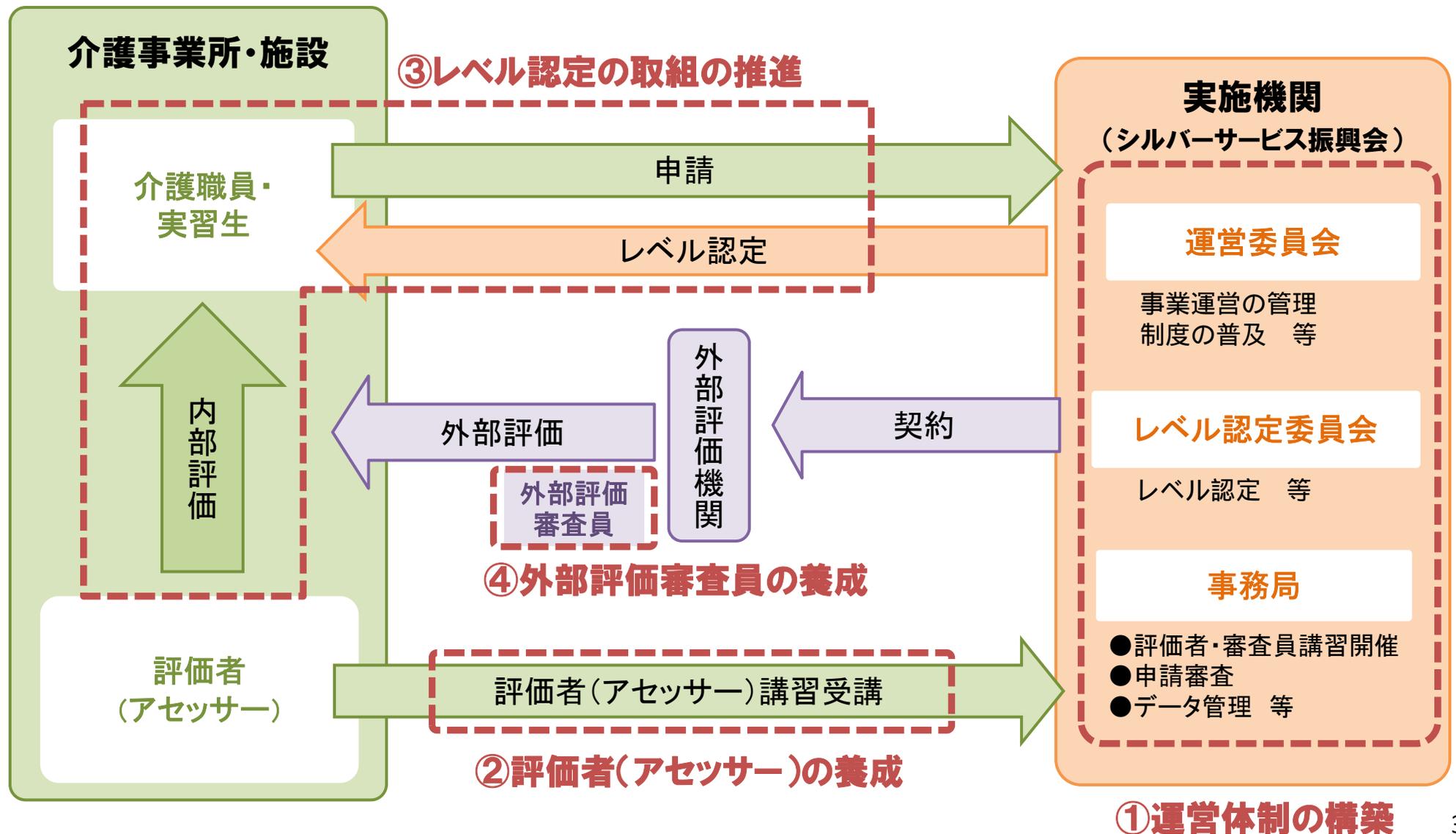
⇒ 365名が受講。今年度中に合格者決定。

26
年
度

特定被災区域で重点的に実施しつつ、本格的に全国展開

介護キャリア段位制度の実施体制の構築

制度立上げ後、①運営体制の整備、②評価者(アセッサー)の養成、③レベル認定の取組の推進、④外部評価審査員の養成等を行い、介護キャリア段位制度の実施体制を構築。



運営体制の整備

公平かつ透明性の高い運営体制を構築するため、実施機関に運営委員会及びレベル認定委員会を設置。

◎運営委員会

【審議事項】

- ・ 事業実施スケジュールの管理
- ・ 事業内容の検討・検証
- ・ 普及啓発策・広報の検討・検証
- ・ (必要に応じて)介護WGへの制度改善提案 等

【委員】

- 高橋 紘士 国際医療福祉大学大学院教授
- 太田 貞司 神奈川県立保健福祉大学名誉教授
- 大山 知子 (公社)全国老人福祉施設協議会
広報委員会副委員長
- 沖山 奉子 東亜建設工業(株)執行役員 建築事業本
部副本部長 ウェルフェア営業部長
- 小林 光俊 (公社)日本介護福祉士養成施設協会会長
- 竹内 敬和 日本労働組合総連合会生活福祉局部長
- 田中 雅子 (公社)日本介護福祉士会名誉会長
- 筒井 孝子 国立保健医療科学院統括研究官
- 馬袋 秀男 (一社)全国介護事業者協議会理事長
(民間介護事業推進委員会構成団体)
- 平川 博之 (公社)全国老人保健施設協会副会長
- 藤井賢一郎 上智大学総合人間科学部准教授
- 藤村 伸治 (独)高齢・障害・求職者雇用支援機構
東北職業能力開発大学校青森校校長
- 柳川 昌紀 (一社)人材サービス産業協議会専門委員
(キャリア段位担当)

敬称略・委員は50音順。○は委員長。

◎レベル認定委員会

【審議事項】

- ・ 内部評価結果の審査、レベル認定、認定証の発行
- ・ 外部評価結果の審査、外部評価結果に基づくレベル
認定の取扱い判断
- ・ 評価基準の解釈
- ・ (必要に応じて)介護WG・運営委員会への制度改善
提案 等

【委員】

- 小山 秀夫 兵庫県立大学大学院教授
- 大山 知子 (公社)全国老人福祉施設協議会
広報委員会副委員長
- 白井 孝子 (学)滋慶学園 東京福祉専門学校
講師
- 田中 彰子 山梨県立大学看護学部教授
- 田中 雅子 (公社)日本介護福祉士会名誉会長
- 筒井 孝子 国立保健医療科学院統括研究官
- 光山 誠 (公社)全国老人保健施設協会
- 鷲尾 公子 特定非営利活動法人市民福祉団体全
国協議会 常務理事
(民間介護事業推進委員会構成団体)

敬称略・委員は50音順。○は委員長。

評価者(アセッサー)の養成状況の概要

	平成24年度	平成25年度
講習開催期間	1月18日～3月29日 計4回(8日間)集合講習を開催	8月5日～10月30日 (eラーニング・トライアル評価・集合講習)
講習方法概要	(1)テキストによる事前学習 (2)2～3週間程度期間を空けた2日間の集合講習の受講 (3)集合講習の間にトライアル評価を実施	(1)テキストによる事前学習 (2)eラーニング受講 (3)トライアル評価の実施 (4)集合講習の受講
集合講習開催県	被災3県で開催 岩手、宮城(2回実施)、福島	11都道府県で同日開催(計1回開催:インターネット中継) 岩手、宮城、福島、茨城、千葉、北海道、東京(2会場)、愛知、大阪、広島、福岡 ※東京会場の1会場:全国老人保健施設協会とのタイアップにより実施
①受講者数	385名	3,397名
②修了者(合格者)数	326名	3,003名
③未修了者数(①-②)	59名	394名
④評価者(アセッサー)登録者総数	3,329名	

評価者(アセッサー)の要件

以下の①～③の全てを満たす場合、評価者(アセッサー)となることができる。

- ① 属性要件を満たしていること。
- ② 評価者(アセッサー)講習を修了していること。
- ③ 介護事業所・施設において、介護職員に対して、評価・OJT指導を実施できること。

◎属性要件

以下のいずれかに該当する方

- 介護キャリア段位レベル4以上の方
- 以下の①～④のいずれかの要件を満たす方(制度開始から3年間程度)
 - (i) 介護福祉士として3年以上実務に従事した経験があり、かつ、介護福祉士実習指導者講習会を修了した方(介護福祉士養成実習施設実習指導者Ⅱの要件を満たす方)
 - (ii) 介護福祉士等の資格を得た後10年以上実務に従事した経験等を有する方(実技試験に係る介護福祉士試験委員の要件を満たす方)
 - (iii) 介護福祉士等の資格を得た後5年以上実務に従事した経験等を有し、介護技術講習指導者養成講習を修了した方(介護技術講習指導者の指導者の要件を満たす方)
 - (iv) サービス提供責任者、主任等(チームやユニットを管理・運営し、部下に対して指導・助言を行う役職に就いている者)又は介護部門のリーダー(課長(係長)、フロアリーダー等)

◎評価者(アセッサー)講習の概要

【内容】

- 評価者の評価技術の向上・均質化のために、制度の意義や手順を説明するだけでなく、模擬評価等も含めて実施
- 制度の趣旨・概要、内部評価の手順、「できる(実践的スキル)」の評価基準、評価者の役割・留意事項等を分かり易く記載したテキストを作成。
- 確認テストを実施。
- 確認テスト又は再テスト合格者に修了証を交付。

【カリキュラム】(25年度)

- テキストの読み込み
- eラーニング
- 自身の事業所・施設等でトライアル評価
- 集合講習(同時中継、全国12カ所)座学、模擬評価、確認テスト等

評価者(アセッサー)講習カリキュラム(25年度)

【事前学習・eラーニング】 (平均17時間)

目次	内容
第1部 介護キャリア 段位制度について	テスト問題形式 (7割正解必須)
第2部 評価項目・方法 の理解	テスト問題形式 (7割正解必須)
第3部 模擬演習	利用者の状態・ 介護行為の記 録の演習
確認テスト	知識問題(全問 正解必須)
トライアル評価 実施方法	トライアル評価 の実施方法の 説明



基本介護技術* についての トライアル評価 (1か月間・ 平均8時間)

「利用者の状態」に
即した「介護技術」
が提供できている
かどうかを記録

* 入浴介助、食事介
助、排泄介助、移
乗・移動・体位変換
(チェック項目総
数:62)

【集合講習】(5時間45分)

時間	内容
9:30~9:35	開催挨拶・講習案内
9:35~10:00	介護キャリア段位制度の意義
10:00~10:25	評価者(アセッサー)の役割
10:25~11:10	評価基準・評価手順 (DVDなどを活用した知識チェック)
11:20~12:30	演習1:モデル事例を用いた模擬 監査〔模擬評価〕
13:30~15:10	演習2:トライアル評価の相互監査 〔模擬評価〕
15:25~15:50	質疑応答
16:00~16:40	確認テスト(講習修了のためのテスト)
16:40~17:00	連絡事項
後日	再テスト (確認テスト不合格者)

eラーニングやトライアル評価が未修了の場合や、
確認テスト・再テストの両方に不合格の場合は、講
習が修了できない。

eラーニング実施前に、テキスト
を読み込む

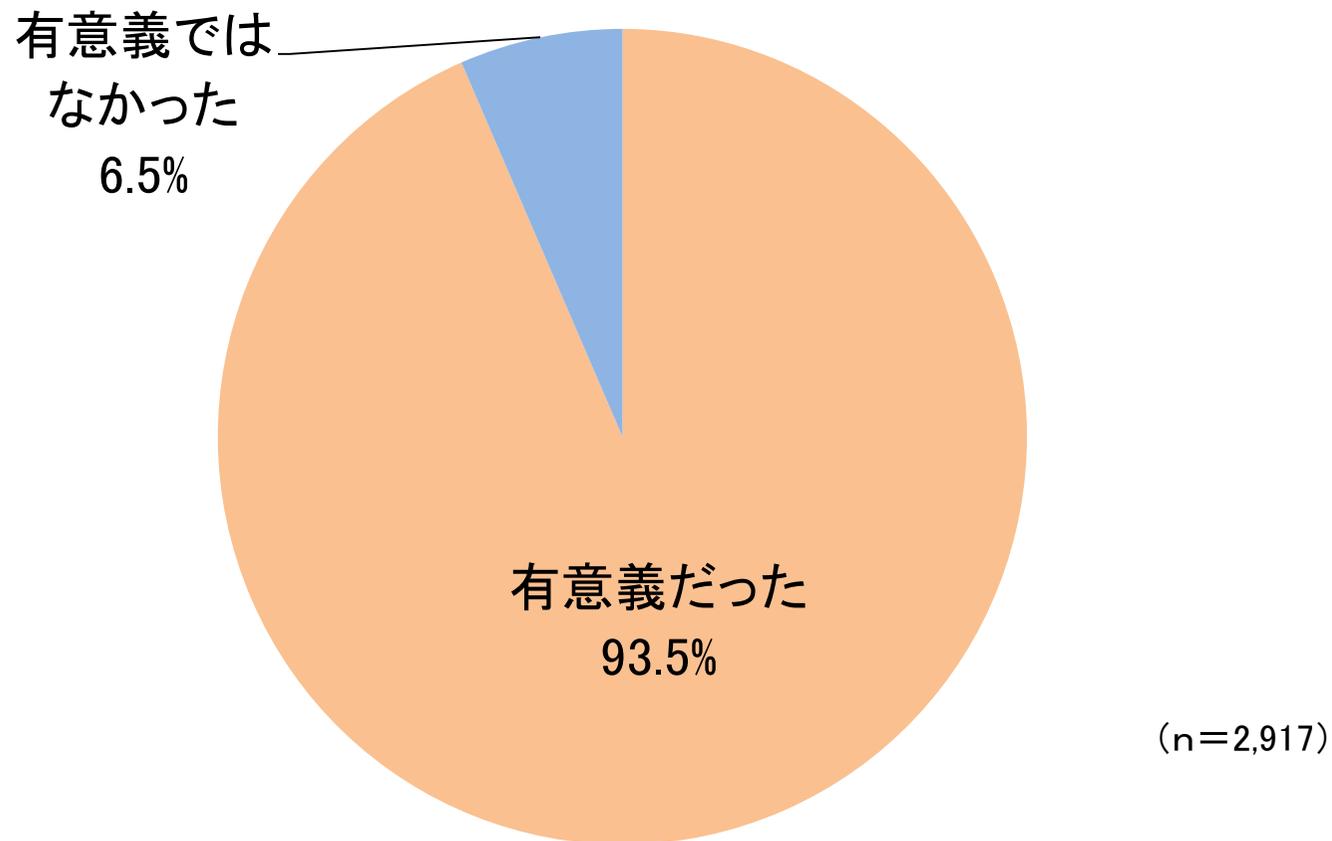
* テキストのURL:

https://careprofessional.org/file/assessor_text20130712181802.pdf

評価者(アセッサー)講習に対する評価

約9割が、評価者講習の内容は、現場で指導を行っていく上で有意義であると回答。

講習の内容は、現場で指導を行っていく上で有意義でしたか？



資料出所: 評価者(アセッサー)向けアンケートは、シルバーサービス振興会「25年度アセッサー集合講習アンケート集計(2013年10月)」。
無回答を除いて集計。

評価者(アセッサー)の養成状況① ～総数～

全47都道府県で3,329名の評価者を養成し、全国的な評価体制を整備。

評価者(アセッサー)総数

全47都道府県で養成

アセッサー数	24年度養成	25年度養成	事業所・施設数
	3,329	326 (被災3県)	

サービス種別ごとの評価者数(主なものの内訳)

特養	老健	訪問介護	通所介護	通所リハ	短期入所生活介護	特定施設	グループホーム	小規模多機能
528	717	665	514	119	86	101	199	92

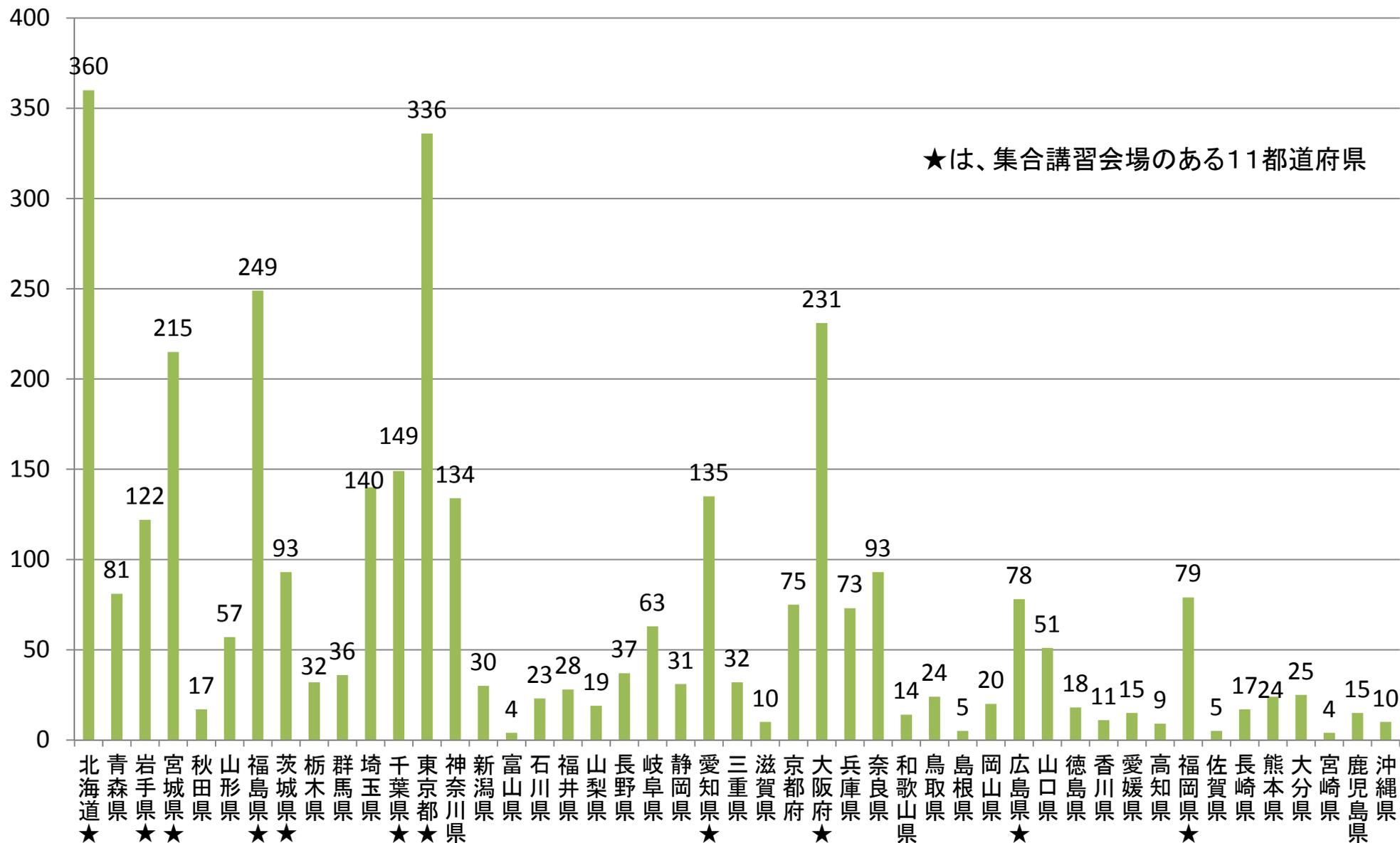
事業所・施設の所在地ごとの評価者数(主なものの内訳)

北海道	青森県	岩手県	宮城県	福島県	茨城県	埼玉県	千葉県	東京都
360	81	122	215	249	93	140	149	336

神奈川県	岐阜県	愛知県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	広島県	福岡県
134	63	135	75	231	73	93	78	79

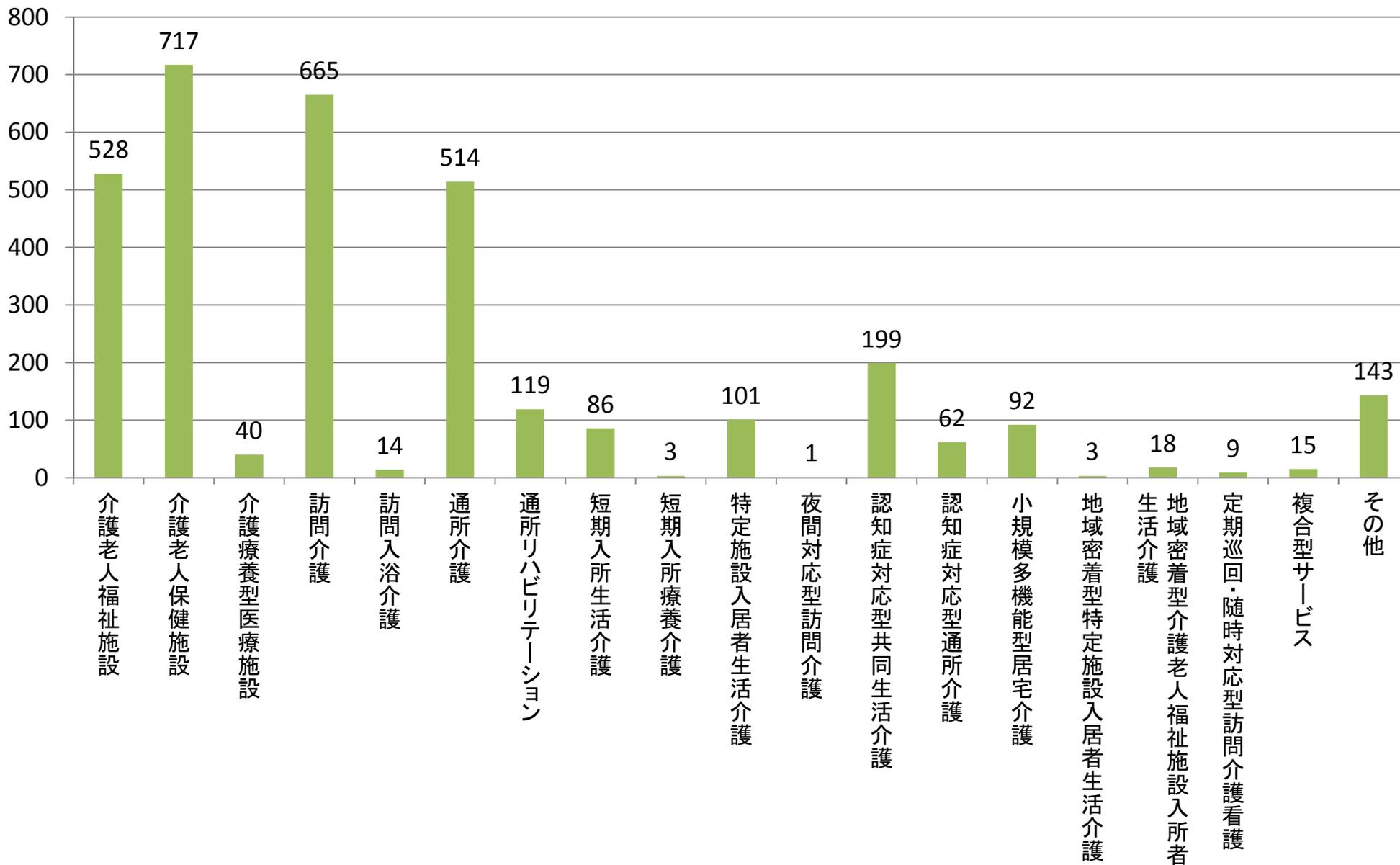
評価者(アセッサー)の養成状況② ～都道府県別状況～

事業所・施設の所在地ごとの評価者(アセッサー)数



評価者(アセッサー)の養成状況③ ～サービス種別ごとの状況～

サービス種別ごとの評価者(アセッサー)数

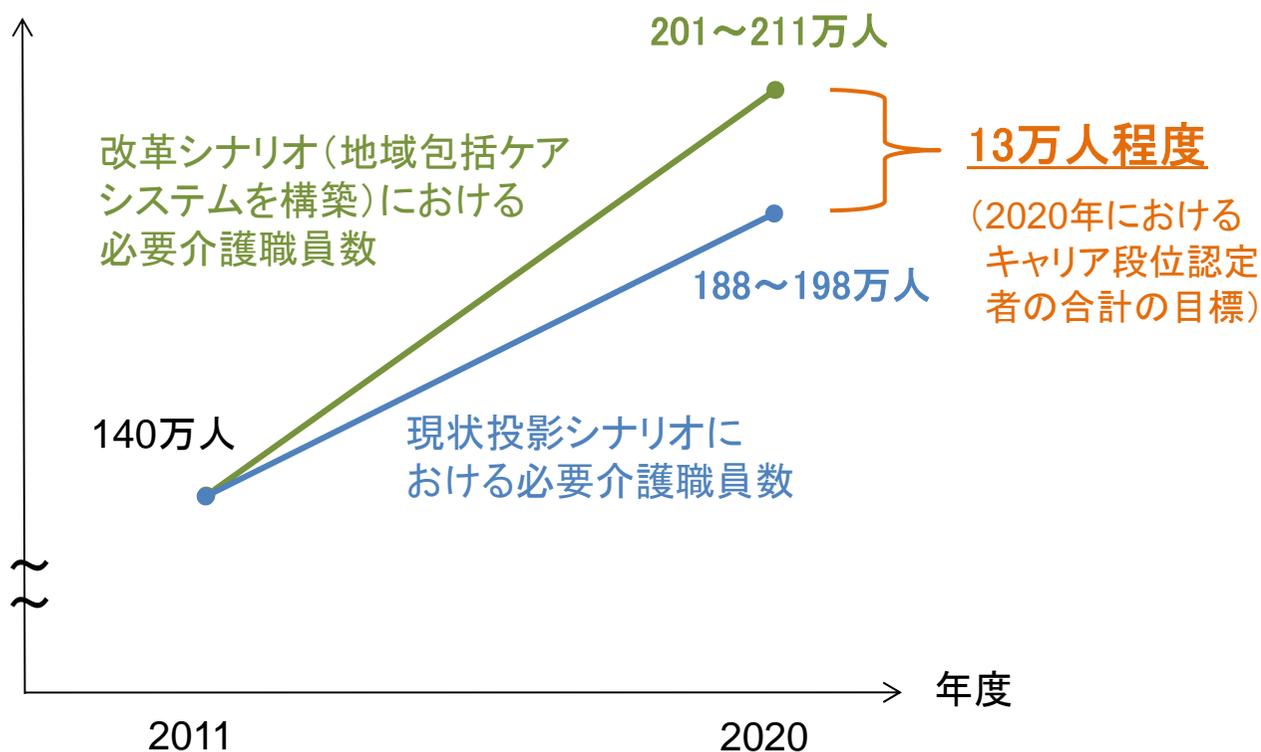


介護プロフェッショナルのキャリア段位制度の目標

※ 第9回介護プロフェッショナルWG(24年8月2日)において決定

- 社会保障・税一体改革においては、地域包括ケアシステム(医療、介護、予防、住まい、生活支援サービスが連携した要介護者等への包括的な支援)を実現するため、より多くの介護職員が必要になる。
- このため、介護職員の参入や定着を促進し必要な介護職員が確保できるよう、2020年において、キャリア段位認定者数の合計を13万人程度とすることを目標とする。

介護職員数



- 目標の達成に向け、制度創設後3年間で2万人程度、2015年度以降は各年度2万人程度のキャリア段位認定者の育成を目指す。

(注1) 必要介護職員数は、「医療・介護に係る長期推計」(平成23年6月、社会保障改革に関する集中検討会議)の「現状投影シナリオ」及び「改革シナリオ」より。

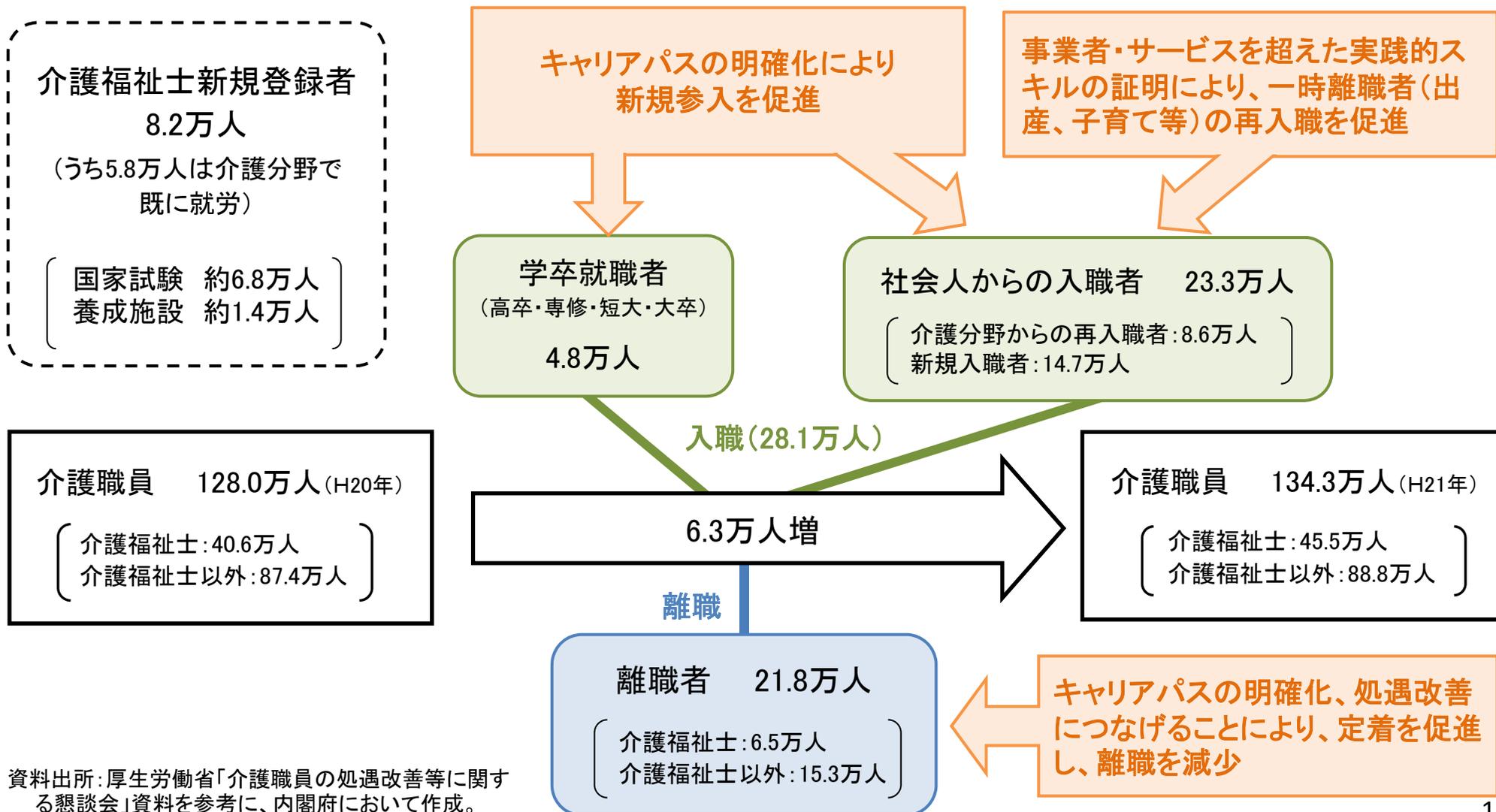
(注2) 現状投影シナリオ: 現在の性・年齢階級別のサービス利用状況をそのまま将来に投影したケース

(注3) 改革シナリオ: 地域包括ケアシステムが構築され、在宅介護や認知症対応等が推進されたケース

介護職員の動向（イメージ）とキャリア段位制度の目標

※ 第9回介護プロフェッショナルWG(24年8月2日)資料

- キャリアパスの明確化や処遇改善につなげることにより、「介護職員の定着促進・離職防止効果」及び「新規参入の促進効果」の実現を目指す。
- これによって、2015年度以降は、キャリア段位認定者を年間2万人程度とすることを目標とする。



資料出所:厚生労働省「介護職員の処遇改善等に関する懇談会」資料を参考に、内閣府において作成。

レベル認定の進捗状況①（2014年2月末現在） ～総数～

レベル認定に取り組む介護職員数が全47都道府県で2,463名となっており、25年度に養成した評価者（アセッサー）を中心に、レベル認定に向けた取組が着実に推進。

レベル認定に取り組む介護職員の総数 全47都道府県で取組実施

レベル認定に取り組む 介護職員	24年度評価者 が評価	25年度評価者 が評価	事業所・施設数
	2,463	66	

通常、事業所・施設内での評価の完了まで6か月程度掛かる場合が多い。評価完了後、申請し、審査を経て、レベル認定される。

25年度に養成されたアセッサーは、通常、26年1月以降、評価を開始している場合が多い。

* レベル認定を受けた者は7名。

（内訳）レベル2①：1名（福島・通所介護）

レベル3：2名（岩手・老健、岩手・特養）

レベル2②：2名（岩手・老健、岩手・通所介護）、

レベル4：2名（岩手・特養、福井・特養）

サービス種別ごとのレベル認定に取り組む介護職員の数（主なものの内訳）

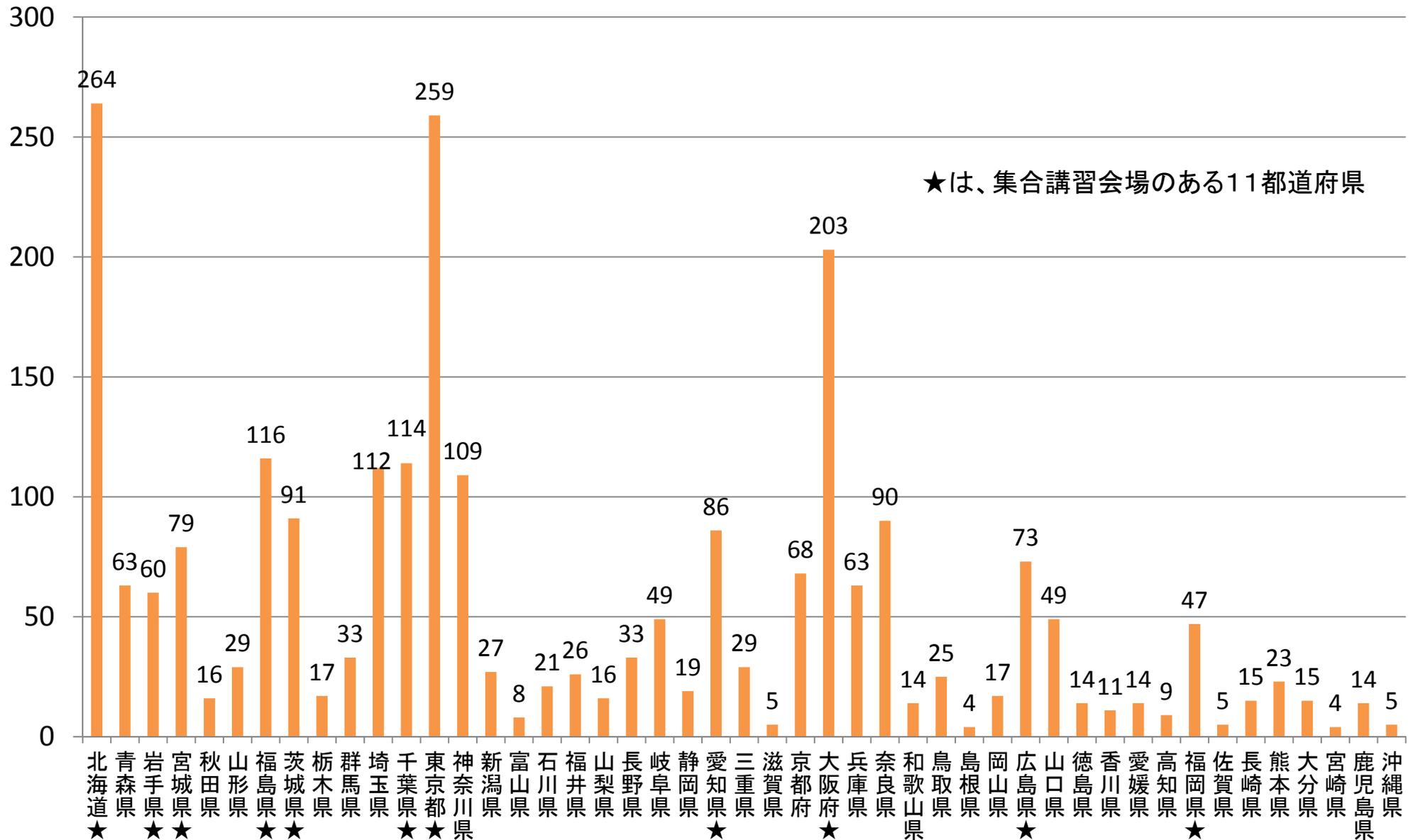
特養	老健	訪問介護	通所介護	通所リハ	短期入所 生活介護	特定施設	グループ ホーム	小規模 多機能
428	523	468	373	122	68	88	151	71

事業所・施設の所在地ごとのレベル認定に取り組む介護職員の数（主なものの内訳）

北海道	青森県	岩手県	宮城県	福島県	茨城県	埼玉県	千葉県	東京都	
264	63	60	79	116	91	112	114	259	
神奈川県	岐阜県	愛知県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	広島県	山口県	福岡県
109	49	86	68	203	63	90	73	49	47

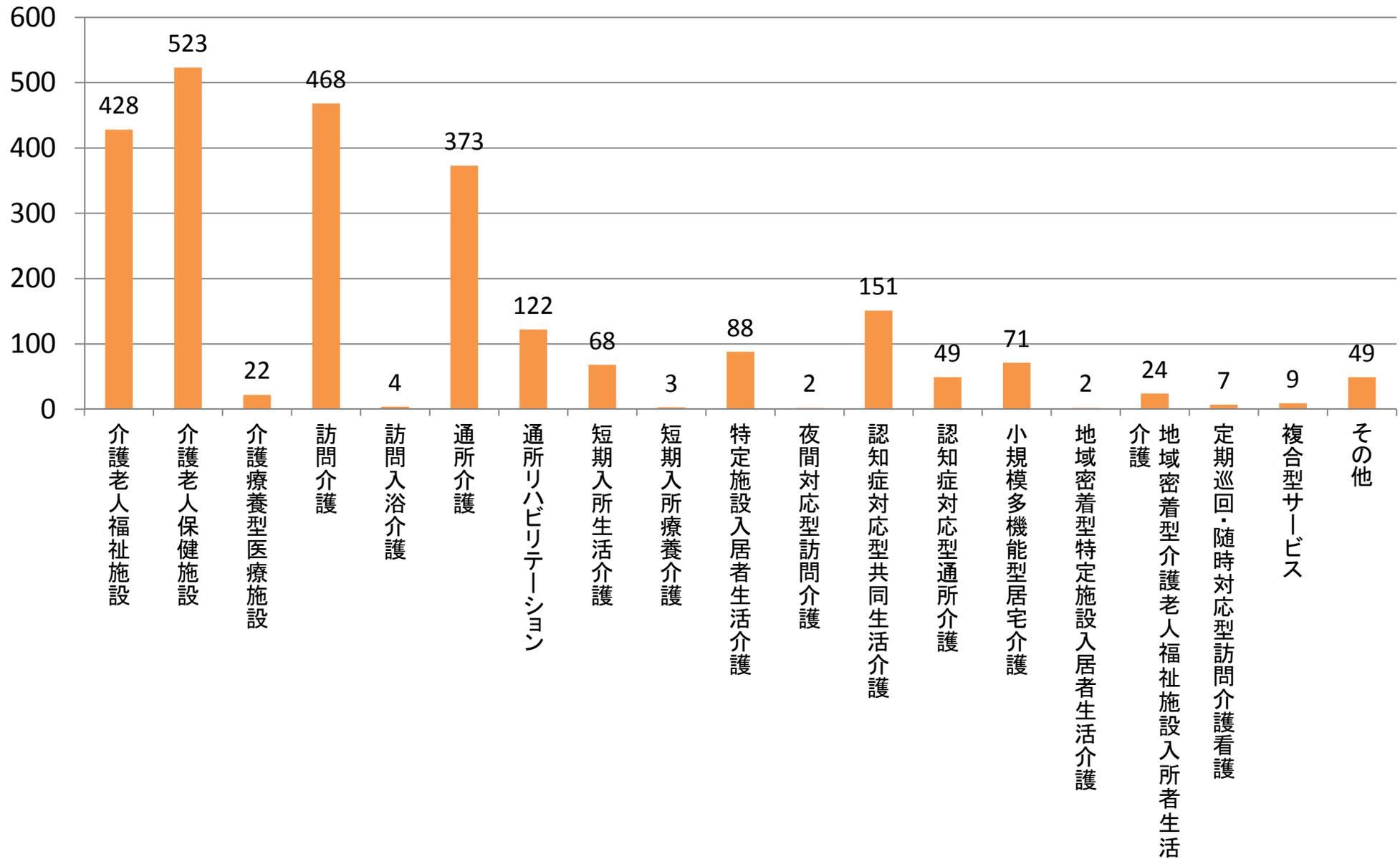
レベル認定の進捗状況②（2014年2月末現在） ～都道府県別状況～

事業所・施設の所在地ごとのレベル認定に取り組む介護職員の数（平成26年2月末現在）



レベル認定の進捗状況③（2014年2月末現在） ～サービス種別ごとの状況～

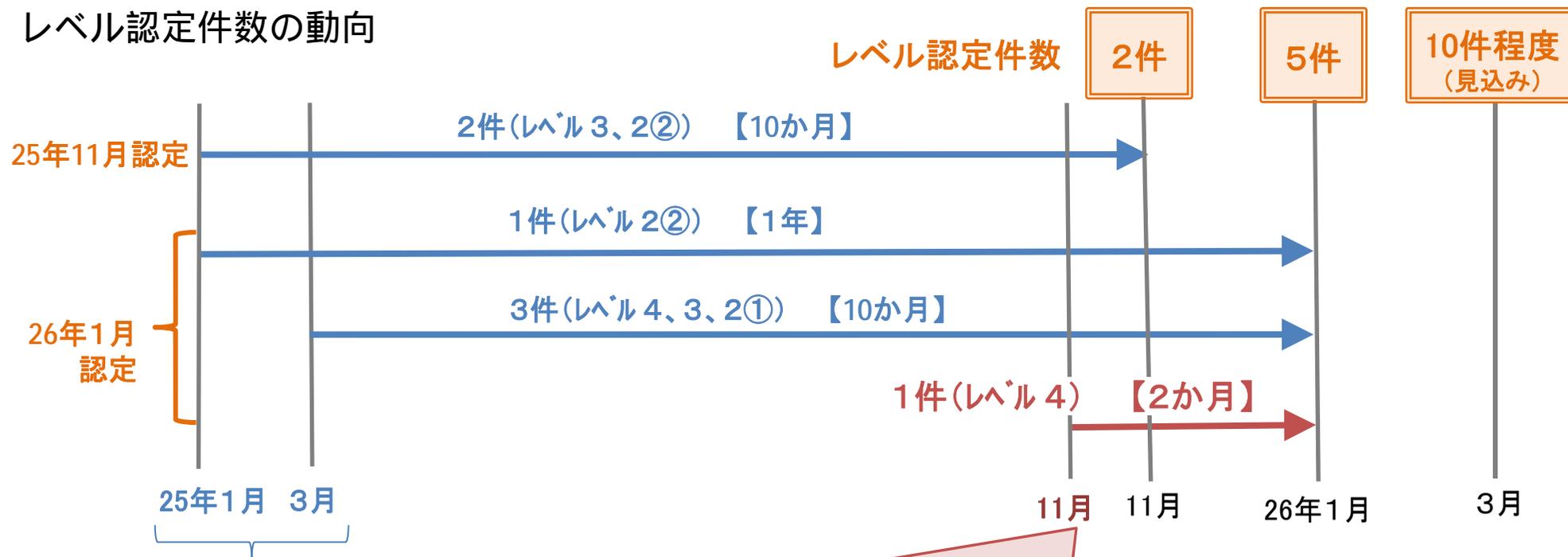
サービス種別ごとのレベル認定に取り組む介護職員の数（平成26年2月末現在）



レベル認定の進捗状況④（2014年2月末現在）～レベル認定件数の増大～

- 内部評価の推進に伴って、レベル認定の件数は、順次、増加。
- 特に、25年度に養成した評価者(アセッサー)は、レベル認定への取組が積極的で、スピードも速く、レベル認定に取り組む介護職員が2,500名程度となる現状を勘案すると、今後、レベル認定件数の増大が予想される。

レベル認定件数の動向



24年度評価者講習【被災3県】
講習修了後の評価開始について条件を付さず

25年度評価者講習【全11都道府県】
講習修了後2か月以内の評価開始を講習の優先受付条件とした(98%が2か月以内の評価開始予定として講習申込)

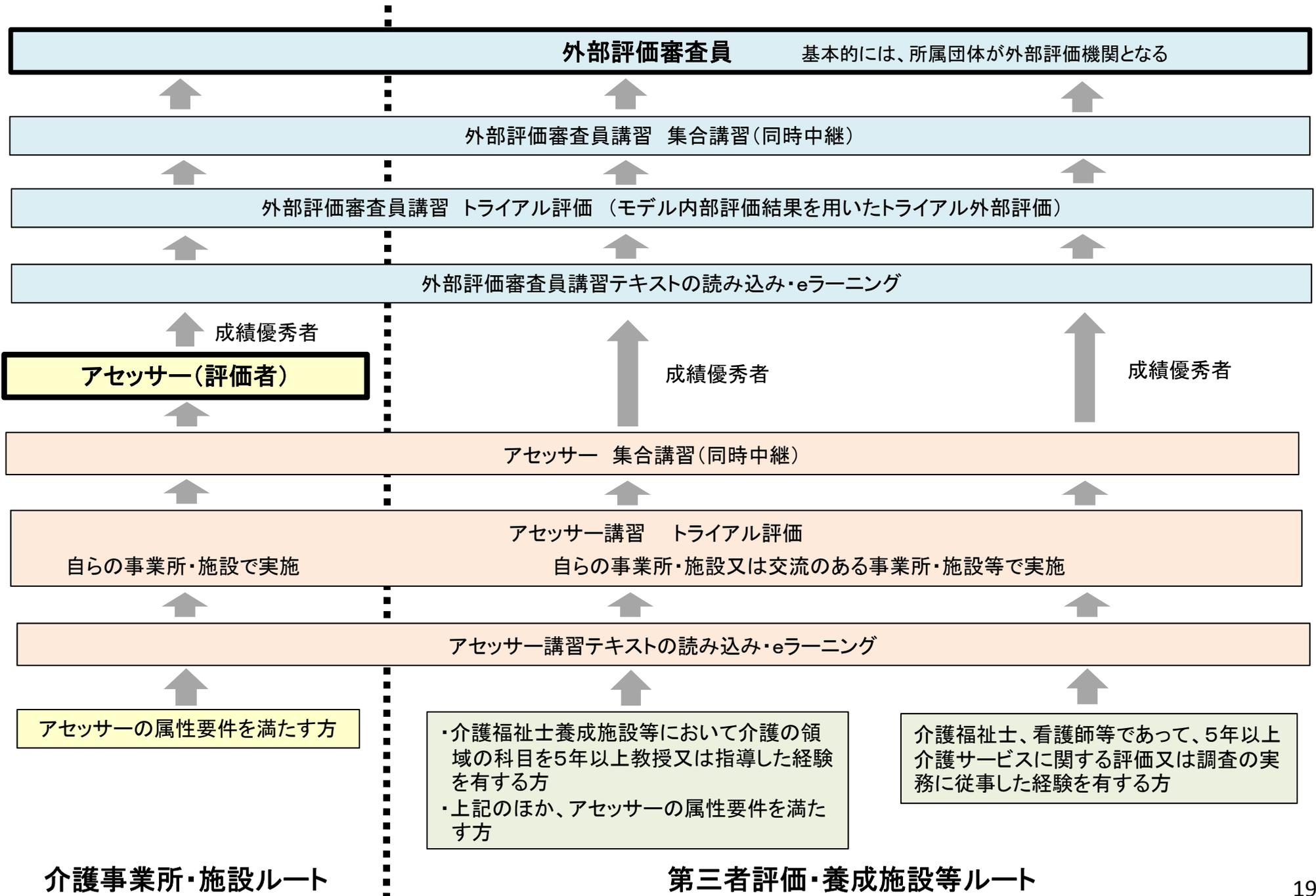
レベル認定への取組状況

	①評価者総数	②レベル認定に取り組む評価者の数	レベル認定取組率(②÷①)
24年度	326名	70名	21.5%
25年度	3,003名	2,296名	76.5%

外部評価審査員の養成状況の概要

	平成24年度	平成25年度
講習開催期間	3月27日、6月29日 計2日間の日程で集合講習を開催	12月3日～2月20日 (eラーニング・トライアル評価・集合講習)
講習方法概要	(1)テキストによる事前学習 (2)1日目講習の受講 (3)トライアル内部評価・外部評価の実施 (4)2日目講習の受講	(1)テキストによる事前学習 (2)eラーニング受講 (3)トライアル外部評価の実施 (4)集合講習の受講
集合講習開催県	宮城県仙台市で開催(2日間実施)	3都府県で同日開催(計1回開催:インターネット中継) 東京、宮城、大阪
①受講者数	26名	365名
②修了者(合格者)数	6名	受講中
③未修了者数(①-②)	10名	受講中
④評価者(アセッサー)登録者総数	6名 (候補者数:10名)	受講中 ※ 25年度中に、365名中の修了者が外部評価審査員として登録される。

外部評価審査員の養成ルート(イメージ図)



外部評価審査員講習カリキュラム（25年度）

【事前学習・eラーニング】 （平均14時間）

目次	内容
第1部 外部評価実施に必要な知識の習得 ①外部評価と審査員の役割 ②外部評価の手順 ③主なチェックポイント	テスト問題形式 （9割正解必須）
第2部 模擬演習 ①外部評価の実施方法 ②外部評価の視点 ③外部評価様式の作成方法	評価事例を用いた演習問題
トライアル外部評価実施説明	実施説明



トライアル外部評価 （1か月間弱）

課題A: 外部評価読み取り事例演習
 （外部評価事例の問題点等を抽出する演習）

課題B: 外部評価演習（モデル内部評価結果について、外部評価を実施する演習）

【集合講習】（5時間45分）

時間	内容
9:30～9:40	開催挨拶・講習案内
9:40～10:05	外部評価の意義
10:05～10:15	外部評価審査員の役割
10:15～10:35 10:50～11:50	外部評価（特に訪問調査）の手順 チェックテスト、解説、優秀者からの発表、小テスト
12:50～13:40	演習A: 外部評価事例読み解き演習 トライアル課題Aについて、優秀者からの発表・解説
13:55～15:15	演習B: 外部評価演習 トライアル課題Bについて、優秀者からの発表・解説、自己評価
15:15～15:30	質疑応答
15:45～16:55	確認テスト（知識問題・演習問題）
16:55～17:05	連絡事項

eラーニング実施前に、テキストを読み込む

* テキストのURL:
https://careprofessional.org/file/sinsain_text.pdf

eラーニングやトライアル評価の修了は必須（未修了の場合は、講習が修了できない）

最終的な合否判定は、確認テスト・小テスト・トライアル評価課題Bの結果に基づき、決定。

外部評価審査員講習の受講状況（平成26年2月20日現在）

外部評価審査員講習受講者の総数 25年度中に365名中の合格者が修了者に

外部評価審査員講習受講者	介護事業所・施設ルート	第三者評価・養成施設等ルート
	365	286

種別ごとの外部評価審査員講習受講者（主なものの内訳）

特養	老健	訪問介護	通所介護	通所リハ	短期入所生活介護	特定施設	グループホーム	小規模多機能
62	64	40	56	16	8	11	12	8

評価機関	介護福祉士会	居宅介護支援	専門学校
32	8	7	8

事業所・施設の所在地ごとの外部評価審査員講習受講者数（主なものの内訳）

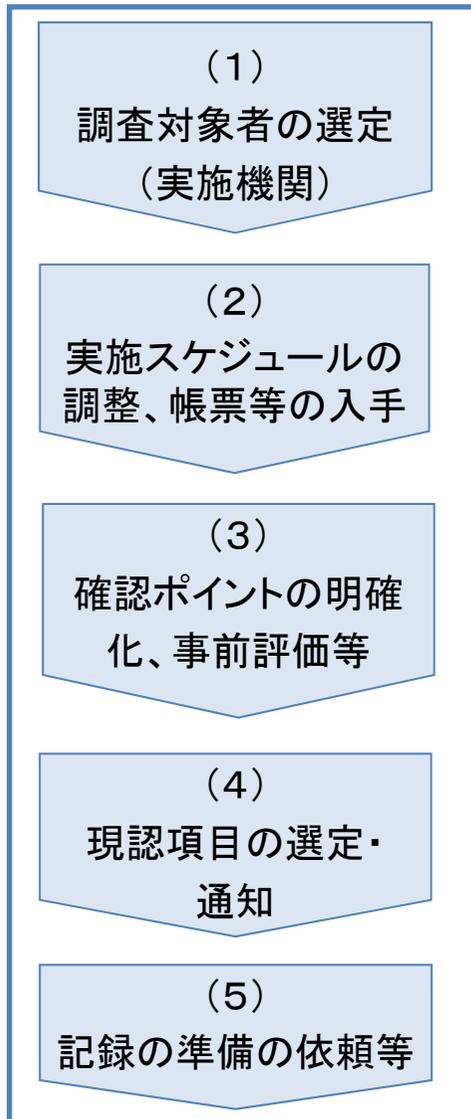
北海道	岩手県	宮城県	福島県	茨城県	栃木県	埼玉県	千葉県	東京都
30	7	15	16	9	9	18	8	36

神奈川県	岐阜県	愛知県	京都府	大阪府	兵庫県	広島県	山口県	福岡県
12	14	23	12	23	20	18	11	7

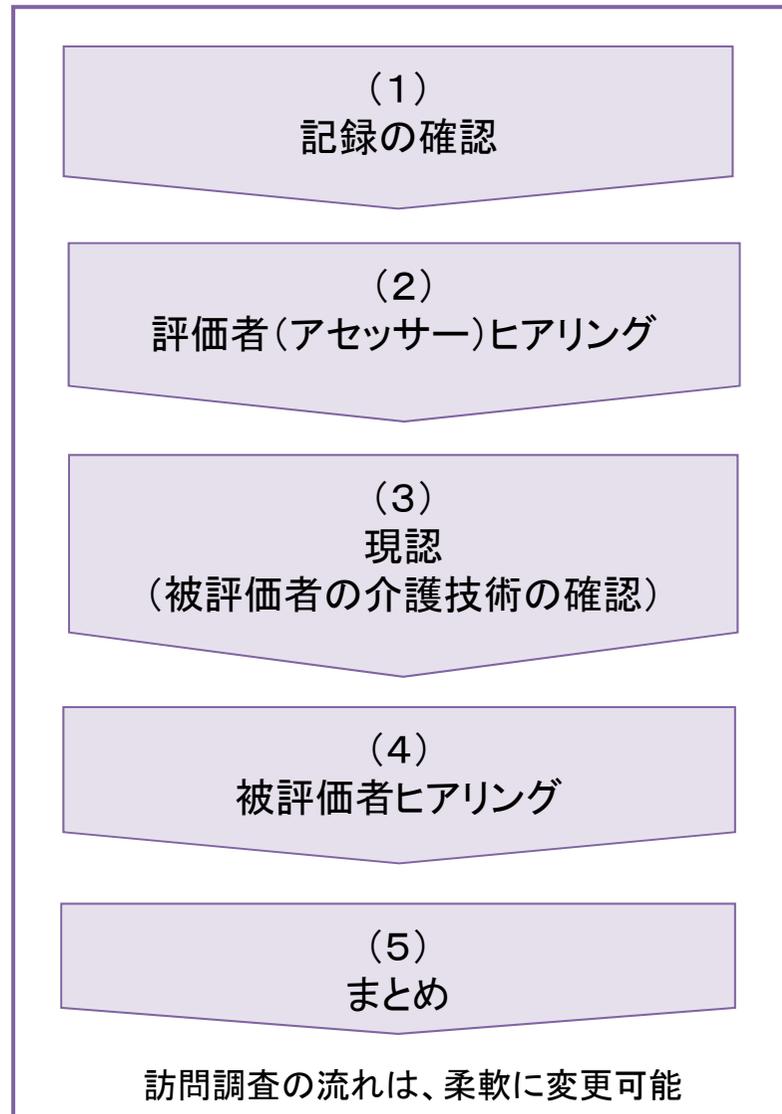
外部評価の流れ

模擬訪問調査も行い、外部評価実施のための詳細な手順書を作成。外部評価においては、内部評価結果の妥当性をチェックするとともに、改善点を指摘して介護事業所・施設の業務改善に貢献。

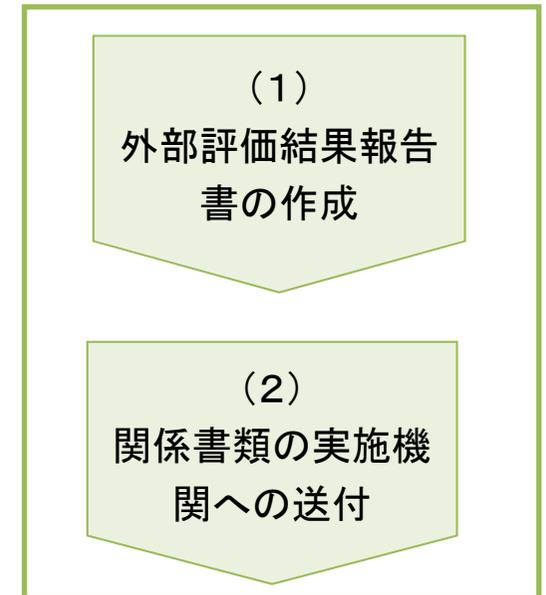
1. 事前準備



2. 訪問調査



3. とりまとめ



4. 外部評価結果確定

